

令和3年度

道 徳

会報 No. 17

夢に向かって 生きる子どもたち

名古屋市道徳研究会

はじめに

令和3年度は元年度から続いていた新型コロナウイルス感染防止対策の一環としてワクチン接種が勧められた年でした。数社から出されているワクチンのどれがいいか、副反応はどうか、など、様々な情報が飛び交いました。また、2021年の夏にはコロナ禍で国民の意見が分かれる中、東京オリンピック、パラリンピックが1年の延期を経て開催されました。その8月にはこれまでにないコロナの第5波が日本を襲い、緊急事態宣言が延長されるなど、まだまだ安心にはほど遠い月日が続きました。学校では9月からタブレット端末を使っての授業が始まり、どの学校・どの学年も日常の学習でタブレットを使っての勉強が始まりました。研究会は会って学び合うという活動がなかなか開けず、ズームによる会話の時も多くありました。

今年度もこのような学習環境の激変の中にあって、研究会の皆さんは共同研究を続ける努力をされました。

教師も自ら考え議論する道徳をめざし、グループでどのような授業ができるのか検討を重ね授業案を作り上げ、その授業案をもって、11月9日（火）岩塚小学校で公開授業研究を行わせていただきました。今回も外部からの来校者を制限し、少数の参観者だけでの授業研究でしたので、授業当日、授業の様子を録画し12月1日（水）勤務後、ズームによるオンライン形式での事後検討会を試みました。新たな試みでしたが、参加者も多く、話し合いも活発で驚かされました。

本会報は、精力的に活動を続けてきた2つの部会の研究を掲載しております。どちらの部会も、テーマに沿った試みを意識した研究部員たちの知恵とアイデアを積み重ねてきたものとなっております。各学校で、ご活用をいただければ幸いです。

なお、研究の推進と会報刊行に際し、ご指導ご助言くださいました多くの皆様方に感謝を申し上げます。また、本研究会の役員・部員の皆様のご尽力に厚く敬意を表します。

令和4年1月

名古屋市道徳研究会顧問
名古屋市立春日野小学校長
三浦昌道

目 次

は じ め に

令和3年度 名古屋市道徳研究会

全体テーマについて・・・・・・・・ P. 1

研究部会のテーマについて・・・・・・・・ P. 2

授業実践（公開授業）・・・・・・・・ P. 4

部員の授業実践例・・・・・・・・ P. 8

合同学習会・・・・・・・・ P.28

本年度のあゆみ・・・・・・・・ P.30

あ と が き

1 全体テーマ

夢に向かって生きる子どもたち

2 テーマの主旨

日々の生活の中で、子どもたちは明るい笑顔を見せます。また、子どもたち一人一人が夢に向かってひたむきに努力する姿に、私たちは人間としての美しさを感じます。このような夢に向かって生きる子どもたちの姿は、未来への希望そのものです。そして、教師、保護者や地域の人々は、このような子どもたちの姿にふれ、明日への活力をもらうこともあるはずです。私たちは、子どもたち一人一人が笑顔絶やすることなく、夢に向かって日々歩み続けていってほしいと願っています。

さて、「道徳科」では、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標に、各学校においては道徳科の授業が行われています。私たちは、道徳教育の要となる、道徳科の授業を一層充実したものにしていかなければなりません。

また、「名古屋市学校教育の努力目標」には「なかまと学び 夢を創る」と示されています。更に、「なかまとの対話を大切にし、ICTを活用して、主体的に学ぶこと」「自他を大切にし、人生をたくましく生きる力を備えること」を重点事項としています。これらを実現するには、子どもたちが見せる成長の様子や発達段階を考慮して、個別最適な学びのある道徳教育を進めていくことが必要不可欠であると考えます。

そこで、本年度は、「小学校低学年・中学年研究部会」「小学校高学年・中学校研究部会」の両部会ともに、「道徳科における個別最適な学びと協働的な学び」をテーマにして、ICTを活用した授業展開や発達段階を考慮した授業の指導方法の工夫について研究に取り組むことにしました。

本年度も、私たち名古屋市道徳研究会は、道徳教育を通して子どもたちが心を輝かせ、人としてよりよく生きていこうと考える姿を、「夢に向かって生きる姿」と捉え、実践を積み重ねていきたいと考えています。





道徳科における個別最適な学びと協働的な学び

I テーマ設定の理由

平成 30 年度に小学校で、平成 31 年度に中学校で、「特別の教科 道徳」（以下、道徳科）が始まりました。教科化という大きな転換期を迎えましたが、道徳的諸価値の理解をもとに、児童生徒が自分の考えを見つめ、話し合いを通して考えを深めたり広げたりする授業を行うことに変わりはありません。私たちは、児童生徒一人一人の学びが深まる道徳科の授業を、児童生徒と教師と一緒に道徳科の学習を創り上げていく実践や児童生徒が自然と考えたくなる気持ちを高める実践などを通して模索してきました。

そのような中、中央教育審議会の『『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）』では、2020 年代を通じて実現を目指す学校教育の姿として、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を挙げ、これらを一体的に充実することが目指されることになりました。また、「次代を切り拓く子供たちに求められる資質・能力としては、（中略）対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し新しい解や納得解を生み出す力」とあり、他者と対話し協働しながら、よりよい方向を目指す資質・能力を身に付けていくことも求められています。個々の学びも他者との協働的な学びも大切にしてきた道徳科の授業において、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることによって、児童生徒が今までよりも物事を様々な側面からみられるようになっていたり、自分事として新たな考えや課題を見付けることができるようになっていたりすることにつながると考えます。そうすることを通して、児童生徒がよりよく生きるための基盤となる道徳性を養っていきたいと考えました。

そこで本年度は、「道徳科における個別最適な学びと協働的な学び」をテーマとして設定し、研究を進めていくことにしました。

II 「個別最適な学び」や「協働的な学び」の一体的な充実を目指した授業展開や指導方法の工夫

1 道徳科の授業における「個別最適な学び」の捉え

「個別最適な学び」は、「指導の個別化」と「学習の個性化」に整理されます。「指導の個別化」は、「一定の目標を全ての児童生徒が達成することを目指し、個々の児童生徒に応じて異なる方法等で学習を進めること」とされています。道徳科の授業においては、例えば、児童生徒の特性に応じた学習となるよう指導方法を工夫することが考えられます。「学習の個性化」は、「個々の児童生徒の興味・関心等に応じた異なる目標に向けて、学習を深め、広げることを意味する」とされています。道徳科の授業においては、例えば、一人一人が興味・関心に応じて考えたり話し合ったりできるよう工夫することが考えられます。

2 道徳科の授業における「協働的な学び」の捉え

「協働的な学び」は、「児童生徒一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わさり、よりよい学びを生み出していくようにすることが大切である」といわれています。

道徳科においては、これまでも、友達と考えを伝え合うことや一つのテーマを基に話し合うこと等、他者と共に学習する活動を取り入れてきました。道徳科の授業において、考えの視覚化や共有ができるような工夫をすることで、異なる考え方が表出する活動を更に充実させることができることが考えられます。

3 道徳科の授業における指導方法の工夫

「個別最適な学び」における工夫の例

【指導の個別化】

○ 個々の児童生徒の特性に応じた学習となるような指導方法の工夫

- ・教科書、デジタル紙芝居等から選択した上で教材を読ませる。
- ・自分に合った方法を選んで考えをまとめさせる。
- ・キーワードや補助的な説明などを書いたものから自分にあったものを選んで、考えのヒントにさせる。 など

【学習の個性化】

○ 児童生徒の興味・関心に応じて考えたり話し合ったりできるような工夫

- ・テーマについて興味関心に応じた探究活動やインタビュー活動などを設定する。
- ・児童生徒の興味・関心に応じたグループで考え、話し合わせる。
- ・児童生徒が話し合いたいことを選択させる。 など

「協働的な学び」における工夫の例

○ 考えの視覚化や共有ができるような工夫

- ・思考ツールを用いて全員の多様な意見を視覚化し、共有したうえで話し合わせる。
- ・通信機能を使って、友達の考えたものに質問させたり、コメントさせたりする。
- ・プレゼン機能を使って、協働制作（同時編集）に取り組ませる。
- ・役割演技を動画として撮影し、全体で振り返りながら話し合わせる。 など

このような様々な指導方法の工夫を取り入れることで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた道徳科の授業を提案したいと考えます。

主題名

働く喜びとは

小学6年生

C 勤労、公共の精神

【教材名】 「働く」ってどういうこと？（出典：きみがいちばんひかるとき 6年 光村図書）
 【ねらい】 人はどのような思いをもって働いているのかを考えることを通して、自分や周りの人たち、社会のために働く意義や喜びに気づき、自分も公共のために役立つとうとする実践意欲と態度を育てる。

【教材の概要】

教科書 P142～P143 様々な職業に就く人々の姿を描いたイラスト

教科書 P144 資料1 お菓子会社に勤める宇都宮さんの話

教科書 P145 資料2 天気予報士・キャスターの関嶋さんの話

教科書 P146 資料3 「どんなときに、仕事にやりがいを感じますか」アンケート結果

個別最適な学びにおける工夫



指導の個別化を図るために、タブレット端末に提示されたシンキングツール「バタフライチャート」（ロイロノート）を活用し、羽の部分にある付箋を必要に応じてヒントとしたり、付箋の中から自分の考えと似たものを選んだりできるようにする。授業のまとめをする際にも、このバタフライチャートをヒントにして考えることができるようにする。

学習の個性化を図るために、身近で働く人のインタビュー動画や取材メモを見て、教材の人物と似ている思いがあるかについて話し合わせる。その際に、自分の興味・関心に応じて動画や取材メモを選択してよいこととする。

協働的な学びにおける工夫



中心発問で、人はどのような思いをもって働くのかについてタブレット端末のバタフライチャートを活用しながら話し合ったり、モニター上で共有したりしながら考えを深めていく。タブレット端末を活用することで、自分と他者の考えが視覚化され素早く共有できることを生かし、児童同士の対話の促進につなげていく。

【授業の流れ】（C…児童、T…教師）

導入

- 働くことについて、ロイロノートのアンケート機能を使って考えを共有する。

T：人はなぜ働いていると思いますか。



【児童が回答したアンケートの結果】※複数回答可

- ・お金のため（27人）
- ・自分の力を発揮するため（23人）
- ・務めを果たすため（19人）
- ・生きがいを見つけるため（18人）

T：教科書のアンケートの結果について、自分も当てはまると思うことはありますか。

C1：やっぱりお金のため
でしょ。

C2：それはそうだけど、
それだけかなあ。

C3：責任ある仕事を任さ
れたとき、やりがい
を感じるよ。

〈考察〉 導入では、ロイロノートのアンケート機能を用いて働く理由について答えさせた。モニター上で結果を共有させたり、教科書のアンケート結果と比べさせたりすることで、「お金のため以外に、人はどのような思いをもって働くのか」について考えてみたいという意欲をもたせることができた。

展開

- 教科書で紹介されている二人（宇都宮さん、関嶋さん）が、どのような思いをもって働いているかをバタフライチャートの左の羽を見て全体で話し合う。

「協働的な学び」における工夫

T：教科書で紹介されている二人は、どのような思いをもって働いているのでしょうか。

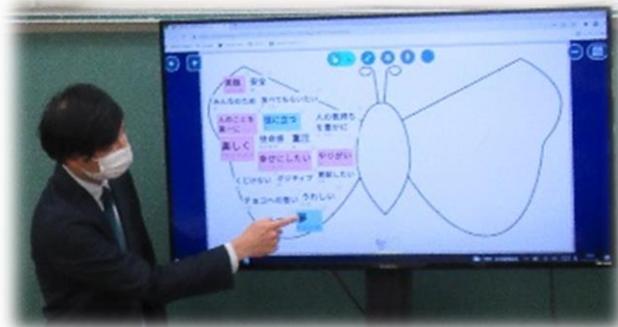


C：お礼を言われているから、
役に立っていると思う。

C：人の役に立つことで、自分の
ためになっていると思う。

C：働くことで、人が幸せになると思う。だから、
人や社会のために働いていると思う。

バタフライチャートの左の羽（事前に宇都宮さんと関嶋さんの働く思いをまとめたもの）を見て、二人に共通している思いを全体で話し合った。その際、「自分のため」「人や社会のため」の二つに色分けしながら付箋の分類も行った。



〈考察〉 事前学習でロイロノートの提出箱に提出させた付箋を、全体の場で、モニター上で共有しながら分類（「自分のため」…青、「人や社会のため」…ピンク）していくことで、教科書で紹介されている二人は、お金のためだけではなく、「周りの人や社会のために」という思いをもって働いていることに気付かせることができた。

- 身近で働く人がどのような思いをもって働いているのかを知り、その内容をグループで話し合って分類する。



「個別最適な学び」における工夫

T: インタビューしてきた身近で働く人たちにも、二人と同じような思いがあるか、動画や取材メモを見て考え、発表しよう。

〇〇さんのお母さんは△△で働いているのか。どんな思いをもって働いているのかな。

〇〇さんのお父さんは、お客さんのことを考えて働いているんだね。

<複数の動画や取材メモから、三つ選んで視聴したり読んだりする様子>

視聴したり読んだりした後、全体で話し合う

C: 人の役に立つことが、やりがいと感じている人が多かったです。

C: 社会に出て人と関わることが、自分のためになると言っていました。

C: 人の生活を、楽しく豊かにしているところが教科書の二人と同じだと思いました。

C: 地域の人が安全に暮らせるようにと思っている人がいました。

<考察> 複数ある動画や取材メモの中から、三つ選択をして視聴したり読ませたりすることで、児童の興味・関心に応じることができ、身近で働く人の思いを主体的に知ろうとする児童の姿を引き出すことができた。



「協働的な学び」における工夫

T: 身近で働く人の思いを教科書の二人と同じように分類しましょう。

バタフライチャートの右の羽の付箋（身近で働く人の思いをまとめたもの）を見て、グループで話し合いながら左の羽の内容と同じように分類していった。

C3: 「安全に」の付箋はどう？自分のためだけではなくて、周りの人のことも考えているよね。



C1: 「くじけない」という思いは、自分のためかな？どう思う？

C2: 自分のためだと思う。

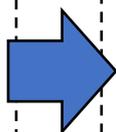
- 人はどのような思いをもって働くのかについて自分の考えをロイロノートの付箋に書き、バタフライチャートの真ん中に三つまで置く。

「個別最適な学び」における工夫

T：人はどのような思いをもって働くのでしょうか。バタフライチャートの真ん中に記入しよう。



<付箋の言葉をヒントにしなが
ら自分の考えを書く様子>



C：働く人たちは、周りの
人がどういう思い
なのかを常に考えて
いると思いました。

<発表する児童のバタフライチャートをモニ
ター上で共有する様子>

<考察> グループで話し合いながら、付箋の内容を分類していくことで、教科書で紹介されている二人だけでなく、身近で働く人も、人の役に立つことを生きがいとしていたり、「周りの人や社会のために」という思いをもって働いたりしていることに気付かせることができた。さらに、タブレット端末に提示されたバタフライチャートを用いて、人がどのような思いをもって働くのかを、今までの話し合いを基に付箋から選ばせたり、その言葉をヒントにして考えさせたりすることで、児童に自分の考えを明確にもたせることができた。

終末

- 自分がこれから大切にしたい思いについて話し合う。

T：あなたが働くとき大切にしたい思いはなんですか。



C：誰かのために働くことはとても素敵な
ことだと思いました。自分の知らない人でも、
その人が幸せになれるようにしたいと思
いました。

公開授業の成果と課題(○：成果、●：課題)

- 各自が選択して取り組む活動を取り入れることで、興味をもって進んで学習に取り組む姿が多く見られた。また、学習課題を自分事として捉え、考えを明確にもって話し合う姿が見られた。
- ロイロノートのシンキングツールの活用により、それぞれの考えを分かりやすく視覚化できるため、話し合いにおいて考えの共有がしやすくなり、児童同士の対話の促進につながった。
- 各自が様々な情報を取り入れられるようにしたことで、個の学習に広がりをもてた反面、活動が多くなってしまい、児童の中には「もっとじっくり見て考えたい」という思いも高まっていたと感じた。例えば2時間完了の授業としたり、一部内容を他教科・領域(学級活動や総合的な学習の時間など)と連動して行ったりすることで、考えにより深まりをもたせられると思われる。

IV 部員の実践例

実践例①

主題名

いきているっていいな

小学1年生
D 生命の尊さ

【教材名】 いきているって (出典：きみがいちばんひかるとき 1年 光村図書)

【ねらい】 親の出産時の体験談を聞いたり、教材の詩を読んだりすることを通して、生きていることについて考え、命を大切にしようとする心情を育てる。

【教材の概要】

呼吸をすることの気持ちよさ、食事をとることの幸せ、学校でみんなと遊べることの楽しさなど、毎日「あたりまえ」ができることのよさから、「生きていること」のよさを感じる気持ちをうたった詩。

個別最適な学びにおける工夫

事前に、保護者から出産時の苦労や、気持ちについてインタビューする活動を行うことで、児童が自分自身にしかないエピソードに基づいた考えをもって学習に取り組み、自分の命の尊さについて深く考えられるようにする。

協働的な学びにおける工夫

教材の詩に合うような言葉を考え、学級でオリジナルの「詩」を作る。

【実践について】(C…児童 T…教師)

<授業の流れ>

導入 個別最適な学びにおける工夫

○ 事前インタビューをした感想を共有する。

T：おうちの人にインタビューをしてどんなことを思いましたか。

C：ママがいなければぼくはいない。

C：パパ、ママに大切に思われている。

展開 協働的な学びにおける工夫

○ 学級オリジナルの「詩」を作る。

- 「…のはいきていること」「…のはいきているから」の言葉を考える活動
- 考えた言葉を共有する活動



終末

○ 授業の学びを確認する。

T：今日の授業で考えたことは何ですか。

C：自分の命もみんなの命も大切。

C：自分が生まれたから当たり前のことができる。

T：教科書のように「…のはいきていること」「…のはいきているから」の言葉を考えてみよう。

C：お話するのは生きていること

C：運動するのは生きていること

C：けんかするのは生きているから

○ 詩を完成させる。

学級に掲示してある学級オリジナルの「詩」



実践を振り返って

事前のインタビューと、詩の言葉を考える活動を取り入れたことで、日常でできる当たり前のことは、母親が大変な思いをして出産をし、命を授かったことによるものだとして1年生にも認識させることができた。それにより命の唯一性など、生きることについて、多面的・多角的に考えることができた。

【教材名】 こんなとき どうするかな（出典：きみがいちばんひかるとき 2年 光村図書）
【ねらい】 誰かが困っているとき、自分ならどうするかを考えるを通して、思いやりの気持ちをもつことの大切さについて考え、相手のことを考え、優しく接しようとする判断力や心情を育てる。

【教材の概要】

次の2つの場面が提示されている。

① 砂場で、友達が、自分たちが作ったお城を壊してしまった。
(他者の行動で自分が困っている場面)

② 休み時間、仲間に入れず寂しそうにしている子を見掛けた。
(他者が困っている場面)

協働的な学びにおける工夫



教材の具体的な場面について、役割演技を行う。そのとき、以下のそれぞれの立場で参加させることで、多面的に考えることができるようにする。

＜演者（役割演技を行う児童）＞場面に応じて、即興で演じるようにさせる。

＜観客（役割演技を見る児童）＞しぐさや表情の違いなどを見て、演者がどのような考えをもっていたのかを考えさせ、意見を言うようにさせる。

【実践について】(C…児童 T…教師)

＜授業の流れ＞

導入

○ どんなときに困ったかを発表させる。

T：今までにどんなことで困ったことがありますか。どうやって解決しましたか。

展開 協働的な学びにおける工夫

○ 2つの場面において役割演技を行い、困っている人がいた場合、自分ならどうするか考える。

T：それぞれの場面を実際にやってみて、気が付いたことから話し合しましょう。

○ 全体で考えを共有する。

T：演技を見てどんなことに気付きましたか。

- ・ 観客には見ていてどんなことに気付いたか、演者にはどのような思いをもって演じたかを話させて、全体で共有する。

終末

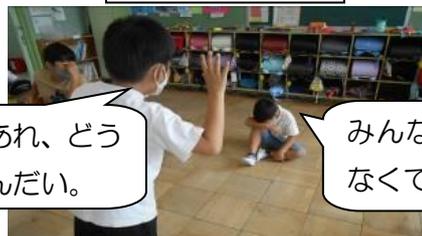
○ 授業の学びを確認する。

T：今日の授業で分かったことは、どんなことですか。

C：相手の様子を見て、どうするとよいか考えて行動すると思った。

C：見ている感じでどう思っているのが決めつけるのはよくないな。

役割演技の様子



あれあれ、どうしたんだい。

みんなと遊べなくて…

＜観客より＞

C：明るく声を掛けていたのはどうしてかな。

C：心配しているような感じには、見えなかったけど…。

＜演者より＞

C：一人で寂しそうだったから、悲しい雰囲気にならないように、わざと明るく声を掛けたんだ。

※ 全体で、観客側と演者側と気づきの違いを捉えさせることで、多面的・多角的に考えるきっかけとなった。

実践を振り返って

実際に児童に役割演技をさせたことで、演者は自分の生活経験から、観客は演者の表情の様子から感じたこと考えたことを話し合うことができた。協働的な学びとなるように工夫を取り入れたことで、立場の違う視点で、多面的に考えることができた。

【教材名】 みんながくらしやすい町（出典：きみがいちばんひかるとき 3年 光村図書）
【ねらい】 困っている人を助けるために大切なことを考え、相手の気持ちや状況を想像して、親切な行為を進んで行おうとする実践意欲と態度を育てる。

【教材の概要】

人々が、町中で、互いに助け合っている様子が描かれている。



階段を上る人のベビーカーを持つ人、目の不自由な人を案内する人、お年寄りの重い荷物を持つ人、バックパッカーに道案内をする人など、多様な助け合いが町中にあふれている。

個別最適な学びにおける工夫



教材の絵の中から自分が興味をもった場面を選択して丸をつける。その中から自分自身で考えたり、話し合いたいことを選択したりすることで、児童一人一人が自分の目標に向けて考えを深め、広げられるようにする。

【実践について】(C…児童 T…教師)

<授業の流れ>

導入

- 今もっている「くらしやすさ」についての考えを発表する。

T:「くらしやすい」とはどのようなことですか。

展開 個別最適な学びにおける工夫

- 自分が親切と思う場面を一人一人が考えて選択し、丸をつける。その後、グループで話し合う。

協働的な学びにおける工夫

- 親切な行いのよさについて、考えを全体で共有する。

T:丸をつけた部分の、どんなところに、よさがあると思いますか。

C:困っている人を、優しく助けてあげている。

C:相手の人を、喜ばせてあげることができる。

T:今日の授業で、新しく知ったことや分かったことを書きましょう。

終末

- 授業の学びを確認する。

おそいやりは一つでなくたくさんある。おかわりをひろってあげたり、ハンカチをひろってあげたり。

親切な事がい、は、あ、って、自分もやってみたいと、思った。

興味・関心に応じた思考場面の選択

教材の絵から興味・関心に応じた部分に丸をつけ、丸をつけた中から同じものを選んだ人でグループを作り、話し合いを行う。そうすることで、展開で考えを深める内容が多様になった。



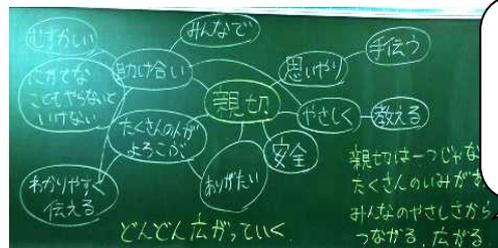
道案内をしている人が親切。



ものを拾ってあげるのが親切。

タブレット端末の活用による議論の活性化

ロイロノートの共有機能を基にして板書していくことで、一人一人の多様な意見を、全体で素早く共有することができた。それを基にして、活発に議論する時間を生み出すことができた。



親切から、よさが広がって、つながる。

実践を振り返って

場面を選択させたことで、興味関心に応じた内容を考えることができて、自分にしかない考えを深めることができていた。「相手がつれしい」や「たくさんの人が喜ぶ」などの発言が増えたことから、多面的・多角的に考えることもできていたと考える。

【教材名】 友だちとのかかわりについて考えよう（出典：きみがいちばんひかるとき 3年 光村図書）
【ねらい】 4つの場面の児童同士の接し方について考えることを通して、生活の様々な状況で相手に公平に接することの意味を理解し、誰に対しても同じように接しようとする実践意欲と態度を育てる。

【教材の概要】

いじめにつながるような4つの場面が示されている。



①持ち物を隠したり落書きしたりする。

②ふざけてぶつかったりたたいたりする。

③相手が嫌がる乱暴な関わり方をする。

④相手が嫌がるようなあだ名をつける。

個別最適な学びにおける工夫



4つのブースで4人の教師がそれぞれロールプレイを行う。児童は各ブースを回って演技を見て、いじめにつながる行動を「した側」と「された側」の両方の気持ちを考える。4つの場面について、「した側」と「された側」の気持ちを考えることで、様々な考えの中から、一人一人が自分にしかない考えをもつことができるようにする。

【実践について】 (C…児童 T…教師)

＜授業の流れ＞

導入

- 日頃の生活の中での他者との関わりで、トラブルになったことや困った経験を挙げる。

T：自分が「嫌だな」「困ったな」という気持ちになるのは、どんなことをされたときですか。

展開 個別最適な学びにおける工夫

- 4つのブースでそれぞれ違う場面のロールプレイを見る。（教材の①～④の場面）

T：それぞれの場面の演技を見て感じたことを、行動を「した側」と「された側」の気持ちに分けて、書いてみましょう。

- 4つの場面について、いじめにつながる行動を「した側」と「された側」の気持ちをそれぞれ考える。

- 全部のブースを回った後に、共有する。

終末

- 授業の学びを確認する。

T：今日の授業で、どのようなことに気づきましたか。

C：誰にでも同じように接することの大切さ。

児童は、ロールプレイを見た後に、「した側」「された側」それぞれについて考えたことを付箋紙に書いていった。考えが思いつかない児童も、友達の付箋紙を参考にすることで、自分の考えをもつことができていた。

時間ごとに交代して次のブースに行くため、自分のグループの付箋紙だけではなく、多くの友達の意見も踏まえて考えることができた。

ロールプレイを見て付箋紙に考えを書く児童



実践を振り返って

児童は、4つのブースでそれぞれ違う場面の演技を見たことで、多面的・多角的に考えた中から、自分にしかない考えをもつことができていた。今までの一斉授業では、他人事のように価値を考えていた児童も、様々なロールプレイを通して、公正・公平について自分事として捉えることができていた。

【教材名】 係の仕事に取り組むときに（出典：きみがいちばんひかるとき 3年 光村図書）
【ねらい】 自分の係の仕事について悩む真由の姿を通して、係の仕事をするときに大切なことは何かについて考え、積極的にみんなのために働こうとする実践意欲と態度を育てる。

【教材の概要】

遊び係の真由はクラスのみんなで出来る遊びを考えて声を掛ける。

意見が多く「面白くない」と言われることもあり、面倒だと思えることが増える。

友達の集平に相談したところ、係の仕事の大切さに気付くことができ、すっきりとする。

個別最適な学びにおける工夫 Point

ねらいに即した生活体験についてのアンケート調査を行い、結果を共有することで、一人一人の思いを教材につなげることができるようにする。

協働的な学びにおける工夫 Point

ウェビングマップを使って、考えを広げさせる。さらに、その考えをロイロノートで共有することで友達の考えに共感したり、新たな考えを生んだりすることができるようにする。

【実践について】(C…児童 T…教師)

＜授業の流れ＞

導入 個別最適な学びにおける工夫

○ 係活動に関するアンケートをロイロノートのアンケート機能を使って行う。

T：係活動をしていて、面倒だと思ったことはありますか。

※ 係の仕事を手伝うと答えた児童は少ないが、それに対して教師が問い返す。

T：係活動って、絶対にやらないといけないのでしょうか。

C：絶対ではないと思う。

T：それなのに、何でみんなは係の仕事を手伝うことができるのでしょうか。

展開 協働的な学びにおける工夫

○ 「係活動を手伝うこと」ウェビングマップを活用して話し合う。

T：なぜ、みんなは、係活動を手伝うことができるのでしょうか

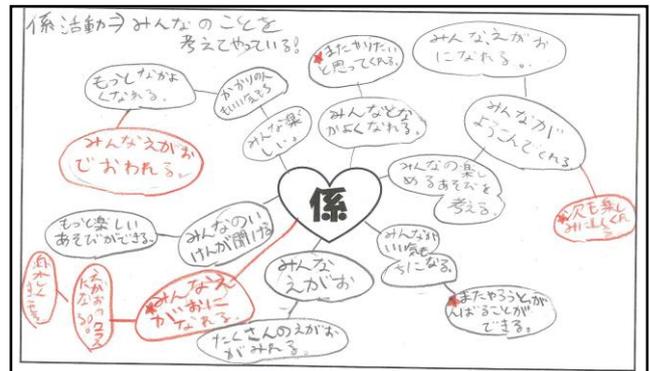
C：みんなが喜んでくれる顔が見られるから。

終末

○ 授業の学びを確認する。

T：今日勉強したことを振り返って、これから係活動をしていく中で意識したいことを考えましょう。

児童の作成したウェビングマップ



ウェビングマップを使い、自分の考えを関連付けて、図を広げさせた。その後、自分の作ったウェビングマップの写真を、ロイロノートを使って全体で共有した。友達の考えを見て、よいと思ったものは、新たに赤色で自分のウェビングマップに付け足すようにさせて、考えが広がったことを捉えさせた。

実践を振り返って

展開では、ロイロノートの共有機能を活用し、全員の考えに触れることで、多面的・多角的に考えることができた児童が多かった。

タブレット端末を使うことで、言葉の交流が少なくなりがちなので、質問をし合い、理由などについても話し合うことで、より自分事として考えを深めさせることが必要だと感じた。

【教材名】 大切なものは何ですか（出典：きみがいちばんひかるとき 3年 光村図書）
【ねらい】 虫たちがそれぞれの一番大切なものについて話し合う姿を通して、命を大切にすること、ということ、ということかについて考えさせ、生命を一生懸命に生きようとする心情を育てる。

【教材の概要】

羽化したばかりのセミが虫たちに一番大切なものは何か聞く。



虫たちがそれぞれ大切だと思うものを言っていく。



アゲハチョウがもっと大切なものがあると言い、モンシロチョウの話をする。

個別最適な学びにおける工夫



- ① 導入と展開では、大切なものについて、「主張」「理由」「根拠」を書き、自分にしかない命に関するピラミッドチャートをつくる。
- ② 終末では、フィッシュボーンチャートを使って「命」に対して自分自身の考えを整理したり、命を大切にするために何ができるのか今後の生活を見通したりする。

【実践について】(C…児童 T…教師)

<授業の流れ>

導入 個別最適な学びにおける工夫①

○ ピラミッドチャートを使い、自分自身の大切にしているものの「主張」「理由」「根拠」を書く。

T：今の生活の中で、自分が一番大切なものは何でしょう。

展開

○ 導入で作成した思考ツールを再度使って、教材について考えたことを追加していく。

T：お話を読んで、新たに考えた大切なものとは何でしょう。

C：小さな虫にも大切な命がある。虫には一つしかない命だから、一番上の位置になる。

終末 個別最適な学びにおける工夫②

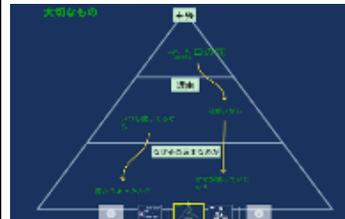
○ かけがえのない様々な命のために、自分には、これから何ができるか考える。

T：命を大切にするために、これからどんなことができるでしょう。

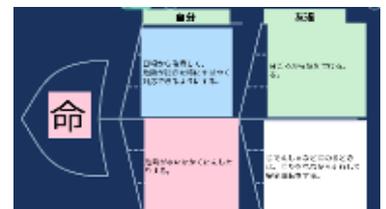
C：自分が気付かないような小さな命も、大事にしたい。

C：自分たち以外の命も大切にしたい。

・ ピラミッドチャートを使って、自分にとって一番大切なものについて、今もっている考えを、階層的に分かりやすく表現していくことができた。



・ フィッシュボーンチャートを使って、命を大切にするために何ができるかについて一つ一つの考えを関連づけた。そうすることで、自分の考えを整理して、深めることができた。



実践を振り返って

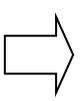
ピラミッドチャートやフィッシュボーンチャートを使ったことで、自分にしかない考えを明確にさせたり、自分にしかない考えの根幹に気付かせたりすることができた。思考ツールを用いて自分の考えを視覚的に分かりやすくすることは、自身との関わりで考えを深める上で、非常に効果的であった。

【教材名】 スーパーモンスターカード（出典：きみがいちばんひかるとき 4年 光村図書）

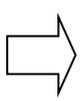
【ねらい】 万引きしようとする友達を止める「ぼく」の姿を通して、正しいことを行うために大切なことについて考え、その場の状況を踏まえた上で、強い気持ちをもって正しい行動をしようとする実践意欲と態度を育てる。

【教材の概要】

ぼくは、カードを欲しが
る友達の大
地がコンビニに入
っていくのを見掛ける。



ぼくは、万引きしよう
としていた大地に声
を掛けて、未然に防ぐ。



万引きは防いだ
が、ぼくはしよんぼりする大地に
何と声を掛けるか迷う。

協働的な学びにおける工夫



- ① 導入場面においてロイロノートの共有ノートの座標軸で一人一人の考えを知る。
- ② 展開場面においてロイロノートで自分の考えを提出しどのような葛藤があるか共有しながら全体で話し合う。（後悔したくない・大地への心配・正義感 など）

【実践について】(C…児童 T…教師)

<授業の流れ>

導入 協働的な学びにおける工夫①

- 日常生活で正義感を発揮しやすい場面について共有し、話し合う。

T: どんなときに正しい行いをするための声掛けをすることができますか。座標軸に示しながら考えましょう。

C: 自分が間違いないと、自信があるとき。

展開 協働的な学びにおける工夫②

- ぼくが悩んだ末に、コンビニで大地に声を掛けたときの心情を考える。

T: 心の中でぼくは何と言ったでしょう。

- ロイロノートの提出機能を使って、ぼくの気持ちについての考えを、全体で共有する。

※ 葛藤する複雑な感情も、捉えさせる。

C: 悩むけど、声を掛けるしかない。

C: 大地のためにも、自分が止めないと。

終末

- 導入と同じ発問について、再度考える。

T: どんな時に、正しい行いをするための声掛けをすることができますか。もう一度、みんなで考えてみましょう。

C: 相手のためにも行動するべきであるとき。

C: しっかりと考えた正義であるとき。

- ロイロノートの中の、共有ノートの座標軸を活用して、一人一人の考えを知った。



- 共有機能を使って、全体でぼくの気持ちについて話し合った。



実践を振り返って

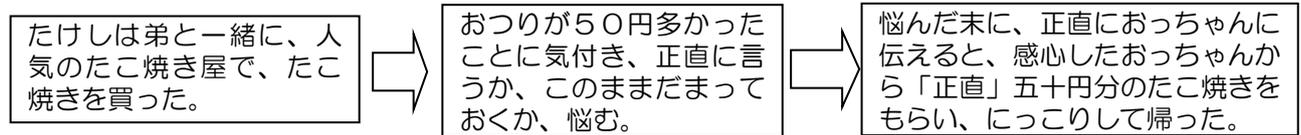
導入と終末において、日常の場面について座標軸を活用して考えを示しながら話し合うことで、自分事として一人一人の考えを明確にもって学習に取り組むことができた。

しかし、教材についての話し合いを十分に行うためには、このような導入と終末の活動に時間を掛けすぎないようにする必要がある。

【教材名】 「正直」五十円分（出典：きみがいちばんひかるとき 4年 光村図書）

【ねらい】 おつりを多くもらったけしが、正直におつりを返しに行く姿を通して、正直に行動することのよさについて考えさせ、自分自身を偽ることなく、明るい心で伸び伸びと過ごそうとする心情を育てる。

【教材の概要】



個別最適な学びにおける工夫

正直に行動することのよさについて事前学習で考えておくことで、十分に時間をとって、じっくりと自分自身にしかない事前の考えをもてるようにする。

協働的な学びにおける工夫

展開において、仲間と対話した内容を発表して、黒板上で、「自分のための正直」か「人のための正直」か、どちらなのかを全体で話し合っ分けていく。

【実践について】(C…児童 T…教師)

<授業の流れ>

事前学習 個別最適な学びにおける工夫

- 正直に行動することのよさを考える。

導入

- 正直に行動することのよさを共有する。

T：正直に行動することのよさとは、どのようなものですか。

展開 協働的な学びにおける工夫

- たけしが正直に行動することができた理由について短冊に記入して、共有する。

T：たけしはなぜ正直に行動しようと思ったのでしょうか。



終末

- 授業の学びを確認する。

T：今日の授業で考えた正直に行動することのよさとはどのようなものですか。

- C：正直は、自分と人の両方のためになる。

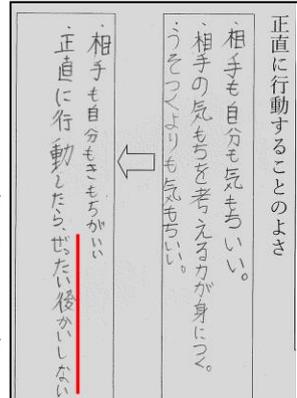
- 正直に行動することができた理由について考える。

C：正直に行動したら自分がすっきりする。

C：返さなかったら、おっちゃんが悲しむ。

児童は、自分たちの考えが「自分のための正直」か「人のための正直」のどちらかを考えながら、仲間の考えを真剣に聞いていた。

対話を通して多様な考えを知ることで、自己の考えを見つめ直すことができた様子であった。実践前よりも、相手の立場に立って、考える児童が増えた。



実践を振り返って

事前学習で正直について考えさせたことと、「自分のため」「人のため」という分類をしたことで、話し合いにおいて多面的・多角的に考えを出すことができた。一つの発言に対してその児童と一対一のやりとりになることがあるため、問い返しの工夫をすることでさらに児童の考えを深めていきたい。

【教材名】 泣いた赤おに（出典：きみがいちばんひかるとき 4年 光村図書）

【ねらい】 友達を大切にするということについて考え、友達とよりよい関係を築き、互いに理解し、信頼し合おうとする心情を育てる。

【教材の概要】

赤鬼は人間と仲良くしたいと思っていた。友達の青鬼は、自分が暴れ、それを赤鬼が止めることを提案。



青鬼のおかげで、赤鬼は、人間と仲良くなれた。



赤鬼が青鬼の家に行くと、「赤鬼が疑われずに人間と仲良くできるように旅に出る」という手紙があり、赤鬼はそれを読んで泣いた。

個別最適な学びにおける工夫 

「クラゲチャート」を活用する。導入で「友達とはどんな人か」について自分の考えを記入させ、終末では話し合いを基に自分の考えを追加させることで、真の友達について考えさせる。

協働的な学びにおける工夫 

ロイロノートの共有ノートを活用して、話し合いにおける考えの共有を行う。

【実践について】(C…児童 T…教師)

<授業の流れ>

導入 個別最適な学びにおける工夫

T：みんなにとって、友達とはどんな人でしょう。

C：優しい人 C：いつも一緒に遊ぶ人

展開 協働的な学びにおける工夫

T：なぜ青鬼は、赤鬼のためにここまでの行動をしたのでしょうか。

C：赤鬼がかわいそうだから

C：赤鬼に幸せになってほしいから

C：赤鬼の願いをかなえてあげたいから

C：自分より赤鬼が大事だから

終末 個別最適な学びにおける工夫

T：みんなにとって、友達とはどんな人ですか。考えを付け足してみましょう。



導入における考え

+ 終末における考え

児童が作成した共有ノート

赤鬼に幸せになってほしいから	赤鬼がかわいそうでもっと幸せになってほしかったから	最近、赤鬼が暗い表情で悲しそうだったから、笑顔にしたかった
心優しい赤鬼が、ものすごくかわいそうで、しかたなかったから	自分を犠牲にしても、赤鬼に幸せになってほしかった	

児童は、友達が書いた考えに興味津々で、互いの意見をよく見合って、考えを広げていた。

導入（黄色の付箋）では「大切な人」「仲がいい人」と書いていた児童が、終末（水色の付箋）では「友達の気持ちを考えられる人」「友達のために全力で取り組める人」などと、話し合いを通して生まれた新たな考えを書き足していた。

実践を振り返って

共有ノートを使って効率的に多くの考えを知り、友情について多面的・多角的に考えることができた。また、クラゲチャートを使って導入と終末の考えを比較して、自分にしかない考えを明確にすることで、自分事として友情を捉えることができた。

【教材名】 「自分らしさ」を見つめよう（出典：きみがいちばんひかるとき 5年 光村図書）
 【ねらい】 「自分らしさのまど」を完成させる活動と手塚治虫さんのエピソードを通して、自分のよさを生かす大切さについて考え、自分自身を伸ばしていこうとする実践意欲と態度を育てる。

【教材の概要】

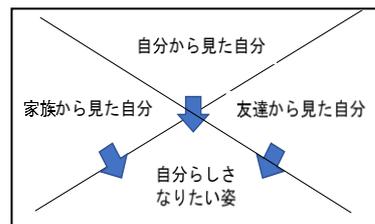
手塚治虫さんは幼少期から漫画が好き。

約700の作品を発表し、世界中の子どもを楽しませた。

自分らしさを生かし、一つのことを続けてほしいと願っている。

協働的な学びにおける工夫 

自分から見た自分と、事前に聞いた家族から見た自分について、Xチャートに記入する。その後、友達に自分のよさをインタビューして右の欄に記入する。



【実践について】 (C…児童 T…教師)

<授業の流れ>

導入

○ 手塚治虫さんに関する教材を読み、自分のよさを生かす大切さを感じる。

T：自分のよさを生かすことはなぜ大切なのでしょうか。

展開 協働的な学びにおける工夫

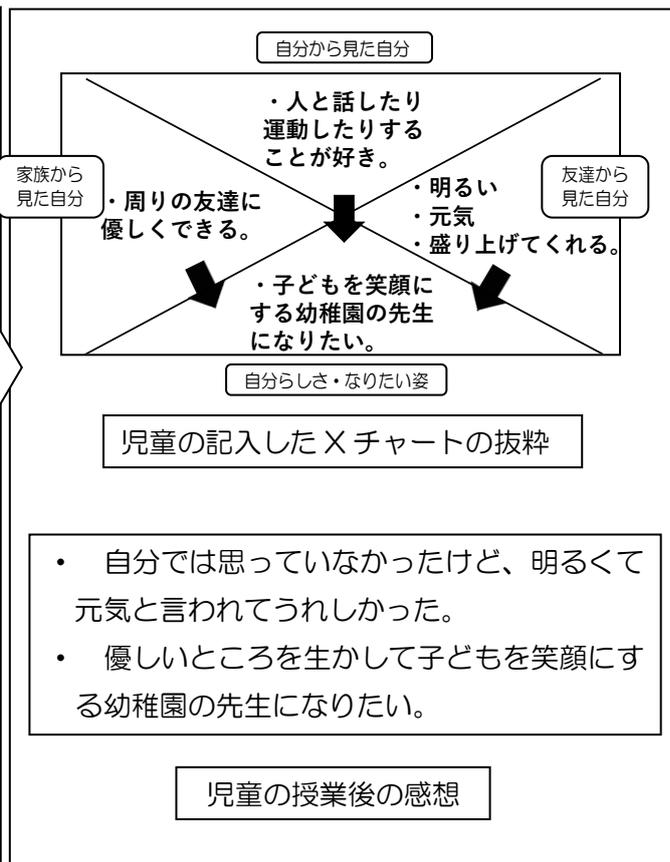
○ 自分のよいところについて友達にインタビューする。

- ・ Xチャートの右の欄に記入させる。
- ・ 「親切」「努力家」などの項目を教師が示して選択させたり、よさを書かせたりする。

終末

○ 自分らしさや、なりたい自分を見つめ直す。

T：改めて感じた自分らしさや、なりたい自分について考えましょう。



- ・ 自分では思っていなかったけど、明るくて元気と言われてうれしかった。
- ・ 優しいところを生かして子どもを笑顔にする幼稚園の先生になりたい。

実践を振り返って

教材から自分のよさを生かす大切さについて気付き、事前活動で行ったことを振り返ることで、自分らしさについて多面的・多角的に考えることができた。また、自分らしさを友達にインタビューする活動を行ったことは、自分では気付かなかった自分らしさについて気付くことができ、児童が自分自身を見つめる上で効果的であった。

【教材名】 真の看護を求めて（出典：きみがいちばんひかるとき 5年 光村図書）

【ねらい】 ナイチンゲールの生き方を通して、真実を追求することの大切さについて考え、疑問や分からないことをそのままにせず、真実を追求し続けようとする心情を育てる。

【教材の概要】

ナイチンゲールは、家族に反対されながらも、看護師になる夢を貫き通した。



クリミア戦争では、負傷者の手当や死者を減らすための努力をし続けた。



戦争が終わり、帰国後も本を書くなど医療に貢献し続けた。

個別最適な学びにおける工夫

展開場面で、二つの事柄について発問をして、自分の考えやすい方を選ばせ、ナイチンゲールに対する考えを整理させる。その際、ロイロノートの思考ツール「Xチャート」を使い、発問に対する考えを見やすくまとめさせ、思考を深めやすくする。

協働的な学びにおける工夫

ロイロノート提出箱から全員の意見を見て、意見交換会を通じて思考を深めさせる。

【実践について】 (C…児童 T…教師)

<授業の流れ>

導入

- ナイチンゲールについて知る。

展開 個別最適な学びにおける工夫

- ナイチンゲールの「カッコよさ」を考える。

T：ナイチンゲールの人物像についてA、または、カッコいいところを探して、Bに書こう。カッコいいところは、その理由をCに書きましょう。

C：社会を変えた人。努力家。

C：反対を押し切って看護師になったところがかっこいい。苦しんでいる人を減らしたいという思いがあったからだと思います。

協働的な学びにおける工夫

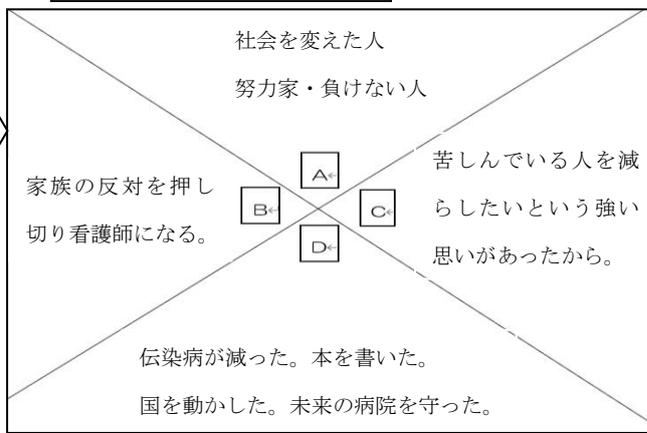
T：ロイロノートの提出箱にあるグループの意見を見て、班で意見交換会をしましょう。

T：カッコいいことを貫き通した結果、どうなったのだろう。Dに書きましょう。

終末

- 授業の学びを確認する。

ロイロノート・思考ツール



ロイロノートで行う班の意見交換会の様子

実践を振り返って

思考ツールを使って考えさせたことで、ナイチンゲールに対する考えを整理することができた。そのため、意見交換を活発に行うことができ、「行動を続けることで人や社会を変える力になる」など、真実を追求することの大切さに気付くことができた。

【教材名】 道案内（出典：きみがいちばんひかるとき 5年 光村図書）

【ねらい】 道に迷っているおばあさんに親切にしようとした主人公「ぼく」や中学生の姿を通して、親切な行いをするときに、相手のためになるのかをよく考えて行動しようとする実践意欲と態度を育てる。

【教材の概要】

「ぼく」と木村くんは、道に迷っているおばあさんに声を掛ける。

メモ帳に地図をかいて渡すが、その後、まだ道に迷うおばあさんを見掛ける。

中学生がおばあさんを案内する姿を見て、親切について考え直す。

協働的な学びにおける工夫



展開場面で、理由を書かせるだけではなく、メーターを使ってどちらの親切が好きかを数値化することで、自分の考えを明確にし、友達にも伝わりやすくする。

ペアの友達と意見を伝え合った後、赤白帽子を被って自分の立場を明確にし、他の児童と意見交流をする。

【実践について】(C…児童 T…教師)

<授業の流れ>

導入

- 親切にされた経験を想起する。

T：最近、親切にしてもらったことはどんなことですか。

展開 協働的な学びにおける工夫

- 親切度をメーターに表す。

T：「メモ帳に地図を書く道案内」と「一緒に歩く道案内」では、どちらの親切が好きですか。

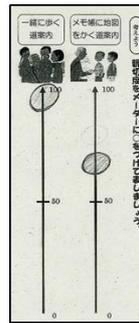
- 赤白帽子を被って、意見交流をする。
C：地図をかくのも親切だけど、おばあさんには文字が小さくて見えないから、一緒に歩く方が親切。

T：では、相手がおばあさんでなくても、一緒に歩く道案内の方が親切ですか。

- C：おばあさんは文字が見えなかったけど、見える人だったら地図で大丈夫。
- C：人によって何が親切かは違うと思う。

終末

- 授業の学びを確認する。



○を付けたところで挙手する様子

※ 「ぼく」と木村くん、中学生の親切な行いについてそれぞれ考えさせた後、ワークシートのメーターに○を付け、理由を書かせた。



赤白帽子を被って交流する様子

ワークシートを交換し、同じ意見や似た意見には赤で線を引かせ、考えを比較できるようにした。

似た理由だね。でも、ここは少し違う！

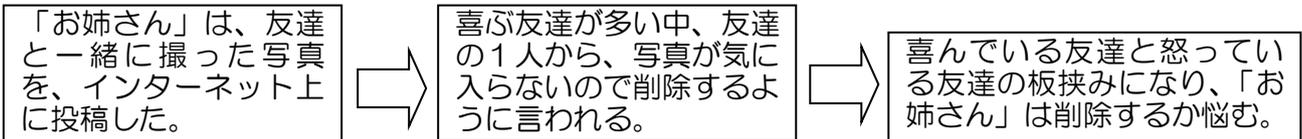


実践を振り返って

メーターに表したことで、「地図をかくことも親切だけど…」と発言する児童の姿が見られ、児童が親切について多面的・多角的に考える上で効果的であった。また、赤白帽子を被ることで、友達の考えが一目で分かり、対話を広げることができた。

【教材名】 気に入らなかった写真（出典：きみがいちばんひかるとき 6年 光村図書）
 【ねらい】 インターネットを利用するとき、どのような責任が伴うのかを考えさせることを通して、相手や周りのことを考え、自律的で責任ある行動を取ろうとする判断力を養う。

【教材の概要】



個別最適な学びにおける工夫

事前学習で、よく使用する機器でのインターネットの利用について、ロイロノートの思考ツール「PMI」を用いて、自分の考えを整理させる。スマートフォンやゲーム機などそれぞれが身近な機器を選択し、整理させることで、良い点だけではなく、問題点にも目を向けやすくする。

【実践について】(C…児童 T…教師)

＜授業の流れ＞

事前学習

- 「PMI」を用いて、一番よく使用する機器についての考えを整理する。

導入 個別最適な学びにおける工夫

- 各自の「PMI」を全体で共有する。

T：表を見て、考えたことや思ったことなどを自由に発表しましょう。

展開

- 教材を読んで、「インターネットを利用するときの責任」について考える。

T：写真を投稿する前に、お姉さんが考えなければいけなかったことは何でしょう。

C：写真の投稿によって傷つく人がいるかもしれない。

C：写真も個人情報であるということ。

C：写っている友達に投稿しても良いか許可を取る必要があった。

- 班で話し合い、全体で考えを共有する。

終末

- 授業の学びを確認する。

身近な機器の特徴をまとめた「PMI」

スマホを使ったインターネット利用について		
P：良いところ	M：良くないところ	I：気になるところ
いろいろなことが調べられる	簡単に悪口をつぶやける	顔も知らない人とやり取りが出来る
連絡手段として活用できる	気を付けないと個人情報も漏れてしまう	課金機能がある
ゲームなどのいろいろな機能がある	情報が全国に広まってしまふ	子供も簡単に使える
自分の意見が簡単に伝えられる	噂に流されてしまふ	個人情報の保護

ゲーム機を使ったインターネット利用について		
P：良いところ	M：良くないところ	I：気になるところ
友達と会わなくても一緒にゲームができる。	ちょっとしたことで個人情報も漏れてしまふ	何故個人情報流出してしまうのか気になる
会話をする事ができる。	簡単に課金ができる。	
動画を見たり、ゲームを買ったりできる。		
世界中の人とゲームでつながれる。		

※ 他にもテレビ、タブレット端末など、様々な機器を選択し、自分の考えをまとめていた。

実践を振り返って

児童が自分にとって一番身近な機器を選び、事前に考えをまとめる活動を行ったことで、インターネットの利用について、良い点だけではなく、問題点に自然と目を向けることができた。

【教材名】 手品師（出典：きみがいちばんひかるとき 6年 光村図書）

【ねらい】 自分の夢を追いかけるか、少年との約束を守るか葛藤し、少年との約束を守った手品師の姿を通して、自分自身に誠実な行動をすることのよさに気づき、誠実に生きていこうとする心情を育てる。

【教材の概要】

売れない手品師が、落ち込んでいる男の子に手品を披露し、明日も来ると約束する。

友人から、明日大劇場のステージに立たないかと誘われ、どちらに行くか迷う。

男の子との約束を守り、たった一人のお客様の前で手品を披露する。

個別最適な学びにおける工夫

ロイロノートの付箋機能を活用し、手品師が男の子の方へ行くことにした理由を考えさせる。文字で表現することが難しい場合は、手品師の気持ちの度合いをハートのイラストに描いて表現してもよいとし、考えを自由に表現することができるようにする。

【実践について】(C…児童 T…教師)

<授業の流れ>

導入

○ 「誠実」について考える。

T：「誠実」と聞いて、どんなイメージがありますか。

C：うそをつかない。 C：分からない。

展開 個別最適な学びにおける工夫

○ 友人の話をしているときの手品師の気持ちを考える。

T：友人の「いい話」を聞いているとき、手品師はどんなことを考えていたでしょう。

C：手品師としてやっていけないかもしれないから、大劇場へ行く。

C：約束を破ることになるから、男の子の方へ行く。

○ 手品師が男の子の方へ行くことにした理由を考える。

終末

○ 授業の学びを確認する。

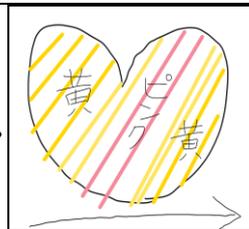
T：「誠実に生きる」とは、どんな生き方のことだと思いますか。

C：自分の気持ちに正直になること。

C：嘘をつかないで、正しいことをする。

T：手品師は、どんなことを考えてたった一人のお客様の前で手品をするを選んだのでしょうか。

C1の考え（イラスト）



矢印は、時間の流れ。最初は、男の子の方へ行こう（黄）と思ったけど、大劇場へ行きたい気持ちもある（ピンク）。でも男の子と約束したから、男の子の方へ行こう（黄）。

C2の考え（文章）

大劇場へ行きたい気持ちもあるし、行けないのは悲しいけど、男の子を悲しませたくないから。男の子の方へ行こう。

実践を振り返って

イラストでも文章でもよいとしたことで、手品師の葛藤の様子に着目して全員が自分の考えをもつことができた。イラストで表現した児童は、色の違いを意識しながら話すなど、スムーズに話し合いを行うことができ、「誠実」について多面的・多角的に考えることができた。

友達を信じるとは

【教材名】 ロレンゾの友達（出典：きみがいちばんひかるとき 6年 光村図書）

【ねらい】 ロレンゾに対する3人の登場人物の言動について考えることを通して、友達を信じることの大切さに気づき、友情を深めようとする心情を育てる。

【教材の概要】

3人の友人の元に、ロレンゾから故郷に帰る旨の手紙が届く。



ロレンゾに疑いがかけられていることが分かり、どうするべきか3人で迷う。



ロレンゾは無実であったが、3人は友人としてどうするべきだったか改めて考える。

協働的な学びにおける工夫



展開場面で、3人の登場人物の言動に対する自分の考えをそれぞれ「モヤッと度（3人に対して納得できない度）」としてメーターで表し、3人の言動は友達のことを考え、信頼しているものかどうかを考えさせる。考えを数値化させ、その後、友達の考えを知る活動を取り入れることで、友情や信頼について多面的・多角的に考えさせる。

【実践について】(C…児童 T…教師)

<授業の流れ>

導入

- 友達の存在について考える。

T：自分の友達は、なぜ「友達」だといえるのかを考えましょう。

C：幼なじみ。信頼できる。話が合う。

展開 協働的な学びにおける工夫

- ロレンゾに対する3人の言動について、考える。

T：3人の考えに対する「モヤッと度」を判定して、メーターに丸をつけ、理由も考えましょう。

- 個人で考えた後、全体で共有し、話し合う。
- 3人がロレンゾに対してどうするべきだったのかを考える。

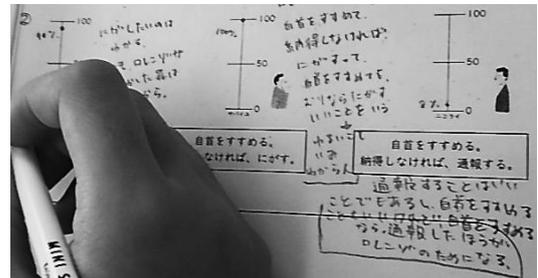
終末

- もう一度、友達の存在について考える。

T：友達は自分にとってどんな存在なのかを考えましょう。

- C：互いの気持ちを分かり合える存在。
- C：何があっても信じてくれる存在。
- C：信頼してくれて、裏切らない存在。
- C：心の中ではそばにいてくれる存在。

自分の考える数値を、理由と共にメーターに記入した児童のワークシート



児童の意見（一部抜粋） ※ □内は「モヤッと度」
アンドレ：お金を持たせて逃がす。

90 ずっと逃げていたら、罪が重くなるから。

90 ロレンゾのためにならないし、友達だから。

サバイユ：自首を勧め、納得しなければ逃がす。

80 逃がしてもいつか捕まるし、ロレンゾにとって良くないから。

100 「自分は勧めた」という言い訳に思えるから。

ニコライ：自首を勧め、納得しなければ通報する。

30 正しいことだと思うけれど、やっぱり友達だからこんなことはやりたくないから。

実践を振り返って

メーターで数値化して表す活動を行った後、互いの考えを共有したことで、さまざまな友達の考えを知ることができ、友情や信頼について多面的・多角的に考えることができた。

児童同士で、数値だけではなく、その根拠を話し合わせることで、より友情や信頼について考えさせることができた。

【教材名】 世界人権宣言から学ぼう（出典：きみがいちばんひかるとき 6年 光村図書）
【ねらい】 「世界人権宣言」から感じたことや考えたことを交流する活動を通して、他者の権利を尊重したり、自分の権利を正しく主張したりすることの大切さに気づき、互いの権利を大切にしようとする実践意欲と態度を育てる。

【教材の概要】

30条からなる世界人権宣言が、谷川俊太郎氏の訳で紹介されている。



宣言は、互いを自分と同じ人間だと認め、その権利を大切にしようとする必要があると述べている。



世界人権宣言の条文には、児童一人一人がクラスで輝くためのヒントがあるのではないかと述べている。

個別最適な学びにおける工夫

Microsoft Teams の投稿機能を用い、世界人権宣言の条文ごとに教師が投稿欄を作成しておく。展開場面で、30条の中から一人一人が大切にしたいと思った条文を選ばせ、感じたことや考えたことを児童に自由に投稿させる。

協働的な学びにおける工夫

終末場面では、ロイロノートの共有ノートを用いて、児童全員で「クラス人権宣言」を作成する。

【実践について】(T…教師)

＜授業の流れ＞

導入

○ その場で、「人権」の意味について、インターネットを使って調べる。

展開 個別最適な学びにおける工夫

○ 「世界人権宣言」を読み、人権について考える。

T：「世界人権宣言」を読んで、心に残った条文に「いいね！」を付けましょう。そして、心に残った理由や条文を読んで考えたことを投稿しましょう。

終末 協働的な学びにおける工夫

○ 「クラス人権宣言」を作る。

T：「クラス人権宣言」に載せたい条文を考え、ロイロノートのテキストに記入して共有しましょう。

事前に入力しておいた条文



条文に対する児童の考え

条文や友達の考えに「いいね」や「ハート」を付ける。

クラス人権宣言



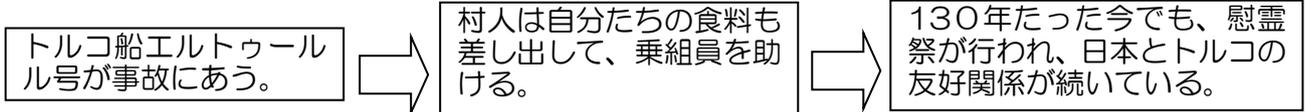
題字やレイアウトなどは児童が考えて作成した。

実践を振り返って

Microsoft Teams の投稿機能を用いたことで、児童の考えを瞬時に共有することができ、世界人権宣言について多面的・多角的に考えることにつながった。また、ロイロノートで、クラス人権宣言を作成する過程を共有しながら活動したため、一体感が生まれ、どの子ども主体的に取り組む姿が見られた。

【教材名】 エルトゥールル号—友好の始まり（出典：きみがいちばんひかるとき 6年 光村図書）
【ねらい】 船員たちの命を助けた村人たちの姿や、今も慰霊祭を行う人々の姿を通して、他国の人々と支え合いながら生きていくためにはどんなことが大切かを考え、国際親善に努めようとする実践意欲と態度を育てる。

【教材の概要】



個別最適な学びにおける工夫

自分が印象に残った場面を選ばせることで教材理解を図り、その後、友達との話合いにつなげる。

協働的な学びにおける工夫

ロイロノートの提出箱の回答共有機能を利用し、友達と考えを共有させる。友達の考えにコメントさせたり、自分の考えに対するコメントを受け取らせたりする。

【実践について】(C…児童 T…教師)

＜授業の流れ＞

導入

- イラク戦争時、トルコが日本人を救出した出来事を話し、教材への関心を高める。

展開 個別最適な学びにおける工夫

- 印象に残った場面を考える。

T：外国の人との関わりで、印象に残った場面はどこですか。それはなぜですか。

C：嵐の中を飛び出し、一生懸命手当てした場面。自分たちも危ないのに、見ず知らずの人を助けているから。

協働的な学びにおける工夫

T：友達の考えにコメントをしましょう。

C：私もそう思う。自分たちよりも相手のことを思いやっているのがすごいよね。

終末

- 授業の学びを確認する。

T：外国の人と関わるとき、大切なことはどんなことですか。

C：外国の人が相手でも、困っている人がいたらできる限りのことをしたい。

- ① 範読を聞きながら、印象に残った箇所に線を引く。
- ② 印象に残った場面について理由とともにワークシートに記述する。

- ① ワークシートを写真で撮り、ロイロノートで共有する。（カメラで撮ることで打ち込みによる個人差解消）
- ② 少人数グループをつくり、友達の考えにコメントしたり、自分の考えにコメントをもらったりする。

恩を忘れずにいるのがかっこいいよね。

知らない人でも助けているのがすごいと思う。



実践を振り返って

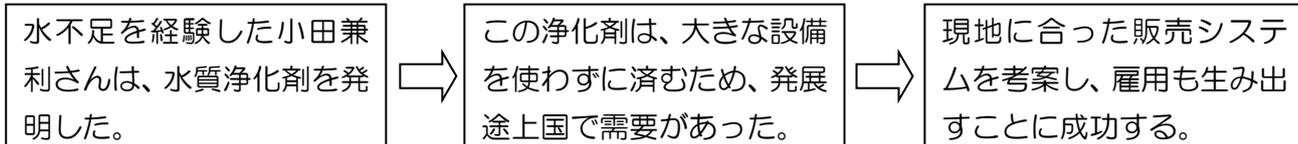
印象に残った場面について選ばせることで、一人一人に、自分の理想とする価値観に気付かせ、自分自身の生き方を見つめ直させることができた。

回答共有機能を利用した後に対話をさせたことで、新しい考えに気付いたり、自分の考えをはっきりさせたりすることができ、多面的・多角的に考えさせる上で効果的だった。

【教材名】 全ての人に安心、安全な水を（出典：とびだそう未来へ 1年 教育出版）

【ねらい】 自分が失敗をしてしまったとき、どのような言葉を掛けてほしいかを考えることを通して、相手の立場に立ち、自分だけでなく他者の立場や気持ちに配慮しようとする実践意欲と態度を育てる。

【教材の概要】



協働的な学びにおける工夫

展開場面では、ロイロノートの提出箱を活用し、それぞれの考えを提出させ、その後、全員の考えを共有する。その上で、グループで話し合い、グループの考えを再び提出箱機能で提出させる。提出箱を活用することで、生徒一人一人の様々な考えを知ることができるようになり、より多面的・多角的に考えさせることができる。

【実践について】(T…教師)

<授業の流れ>

導入

- テレビにスライドを映し出し、発明家クイズを行うことで、教材への興味をもつ。

T：(発明家の写真を写しながら) この人は、どんなことをした人でしょう。

展開

- 小田さんが研究を続けた思いを考える。

T：長い時間を掛け、小田さんが研究し続けられたのは、どのような思いがあったからだと思いますか。

協働的な学びにおける工夫

- 自分だったらという視点で考える。

T：自分自身が何かを継続するとき、必要な気持ちや心構えは何ですか。

- グループで共有し、考えをまとめる。
- 全体で共有する。

終末

- 授業の学びを確認する。

T：授業で学んだことをこれからどのように生かしていきたいですか。

- ① それぞれの考えを書き込み、提出箱に提出させる。



役に立ちたい
という気持ち

- ② 全員の考えを、それぞれのタブレットで見られるように共有する。
- ③ グループで話し合い、考えをまとめ、漢字一文字で表させる。それを提出箱に提出させる。



- ④ 提出箱の考えを全員に共有し、その漢字にした理由を発表させる。

実践を振り返って

ロイロノートを使うことで、一度に多くの生徒の考えを共有することができた。また、共有した考えを自分の考えに反映させ、多面的・多角的な話し合いに発展させることができた。

【教材名】 六千人の命のビザ（出典：とびだそう未来へ 2年 教育出版）

【ねらい】 杉原千畝の決断を支えた思いについて話し合うことを通して、国際的視野に立って世界の平和と人類の発展に寄与する大切さに気づき、千畝の生き方から学んだことを自分の人生に生かしていこうとする実践意欲と態度を育てる。

【教材の概要】

リトアニアの日本領事館に勤務した外交官、杉原千畝。

政府からビザの発給を認めないと言われる。領事館には多くのユダヤ人が押し寄せている。

外務省の命令に背いて、杉原千畝はビザを書き、電車の中からも書き続けた。

個別最適な学びにおける工夫

ロイロノートの中の思考ツールから本時の学習で使いやすいと思ったものを一人一人が選択し、杉原千畝がビザを書き続けた思いについて考えさせる。

協働的な学びにおける工夫

思考ツールを使って考えたことを共有し、杉原千畝の生き方についての考えを深めさせる。

【実践について】(S…生徒 T…教師)

<授業の流れ>

事前学習

- 杉原千畝について調べさせ、ロイロノートの提出箱に提出させる。

導入

- 杉原千畝について調べたことを確認する。

展開 個別最適な学びにおける工夫

- 杉原千畝が大切にしていた思いについて思考ツールを使って考える。

T：外務省の命令に背いて、杉原千畝がビザを書き続けたのはなぜでしょう。

協働的な学びにおける工夫

- 各自が完成させた思考ツールを見合って考えを共有し、話し合う。

終末

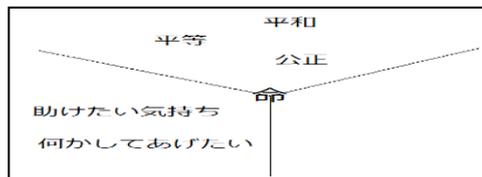
T：杉原千畝の生き方についてどう思ったかを、漢字一字で振り返りましょう。

自分で思考ツールを選択し、杉原千畝が大切にしていた思いについてキーワード化して並べていた。

自分が使いやすい思考ツールを使ってまとめた様子

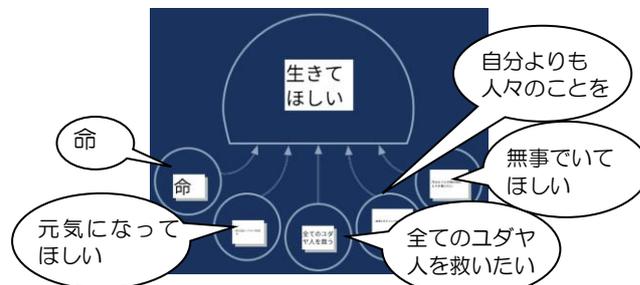
【Yチャートを選択した生徒】

S：カテゴリーに分け、一番大切な思いは真ん中に置いた。



【クラゲチャートを選択した生徒】

S：一番大切な思いは胴体に。足はそれを支えている思い。



同じキーワードでも違う思考ツールや並べ方・思いの違いにより、多くの生徒が友達の話真剣に聞いていた。

実践を振り返って

一人一人が自分で思考ツールを選択することで、自分の思いと向き合い、真剣に考えることができた。また、自分とは違う思考ツールを選択したり、並べ方が違う友達のことを聞いたりすることは、多面的・多角的に考える上で効果的であった。

V まとめ 【○：成果、●：課題、→：改善点】

1 成果と課題

本部会では「道徳科における個別最適な学びと協働的な学び」をテーマに研究を進めてきました。その結果、次のような成果と課題が明らかになりました。

- 「個別最適な学び」における工夫として、個々の児童生徒に応じて選択して取り組むことができる活動、興味・関心に応じて取り組むことができる活動を取り入れたことで、児童生徒が学習課題を自分事として捉え、自分の考えを明確にもって話し合うことができた。
- 「協働的な学び」における工夫として、通信機器や思考ツールを活用して、全体の考えを視覚化し共有しながら話し合いを行ったことで、児童生徒は様々な立場や意見があることに気付き、自分の考えを広げたり深めたりできた。

- 主にタブレット端末における通信機能を活用することにより、一度に多くの児童生徒の考えを共有することができたが、共有できた多様な考えを、その後の議論に生かすことが十分にできなかった。
 - 共有した多様な考えを基に、比較する、共通点を見つけるなどの活動を取り入れたり、教師が問い返しの発問を行ったりして、議論がより深まるよう工夫することが大切である。特にタブレット端末については、今後ますます児童生徒が操作に慣れていくと考えられるので、議論の時間の確保につなげていきたい。

<部員の声から>

個別最適な学びを取り入れた学習を繰り返し行ったことで、子どもたちが目を輝かせて学習に取り組むようになりました。



タブレット端末を活用することで、考えの共有を素早く行うことができました。今後も、より効果的な活用の仕方を考えたいと思います。



個別最適な学びで得たことを、協働的な学びに生かすことができるようにするための工夫が大切なのではないかと感じました。



2 今後の方向性

今年度、本部会では「道徳科における個別最適な学びと協働的な学び」の研究に取り組みました。個々の考えを視覚化し、グループや学級全体で共有させることで、対話の促進につなげることができました。その中でも、タブレット端末を使った活動は、児童生徒がより主体的に取り組むことができた反面、上記のような課題も出てきました。

また、各自に選択させる活動を取り入れることで個別最適な学びの充実を図ることができましたが、その他の方法についても探る必要があると考えます。今後も、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ることで、道徳科の授業が充実するよう実践を進めていきたいと思ひます。

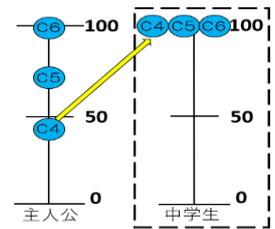
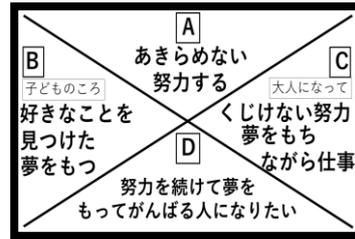
令和3年度合同学習会

小学校低学年・中学年研究部会と、小学校高学年・中学校研究部会の両部会が集まって合同学習会を行っています。本年度は、毎回異なるテーマを設定し、部員が行った授業について発表し合い、道徳科の指導方法について学習を行っています。

第1回 (5/14)

「他者と協働する道徳科の授業」

第1回は、他者と協働する道徳科の授業について学習しました。児童生徒同士が、積極的に意見交流するための対話や話し合いの手立てが紹介されました。様々な思考ツールを活用することで、視覚的に分かりやすく、互いの考えを共有しながら話し合いをすることができました。協働的な学習活動を通して、他者を価値のある存在として尊重する態度を育むことの重要性を、部員皆で学習しました。

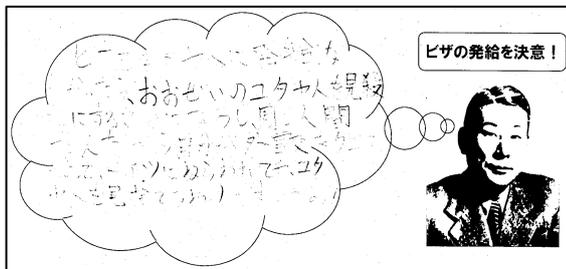


【クロスチャートを使った話し合い】 【スケールを使った話し合い】

第2回 (6/16)

「国際理解と関連させた道徳科の授業」

第2回は、昨今多様化している、国際理解と関連させた道徳科の授業について学習しました。総合的な学習の時間と関連させて、世界の人権問題について学習した上で教材について考えた実践や、世界中の「ありがとう」の言い方を学んだ上で教材について考えた実践が紹介されました。関連する知識や体験的な活動を通して、より国際理解に対する考え方が広がることを学習しました。



【実践のワークシート】

第3回 (7/7)

「他教科や行事と関連させた道徳科の授業」

第3回は、横断的に他教科や行事と関連させた道徳科の授業について学習しました。各学校の特色や子どもの実態に応じて、幅広い実践が紹介されました。他教科等との関連によって、道徳科における補充・深化・統合の役割がより有意義なものになることを学習しました。

	4月	5月	6月	7月	
国語	かえるのびん	めだか	クラスの「生き物アーク」を作ろう	のらねこ	D 生命の尊さ D 自然愛護
理科	しぜんのかんさつ 植物の育ち方(だねまき)	こん虫の育ち方	植物の育ち方(葉・くき・根)	植物の育ち方(花)	
社会			はたらく人とわたしたちのくらし		C 勤労、公共の精神 (キャリア教育)
行事		運動会		工場見学	

【他教科や行事と関連させたカリキュラム】

第4回 (9/3)

「人物教材を用いた道徳科の授業」

第4回は、様々な人物教材を用いた道徳科の授業について学習しました。人物教材のもつ力強さを軸にした感動を伴う実践や、その人物に関するクイズや体験的活動を取り入れた実践が紹介されました。偉大な人の葛藤などに着目させることで、生きることの魅力や意味の深さを、自分事として考えさせることができることを学習しました。

第5回 (9/21)

「キャリア教育と関連させた道徳科の授業」

第5回は、子どもたちの将来を見据えた、キャリア教育と関連させた道徳科の授業について学習しました。自己管理能力・課題対応能力・社会形成能力・キャリアプランニング能力などを、道徳科の内容項目と関連させて取り組んだ実践が紹介されました。キャリアシートなどの手立ても取り入れることで、より効果的に自分事として考える有効な手立てとなることを学習しました。



【道徳科とキャリア教育の関係性を表した資料】

第6回 (10/13)

「インクルーシブ教育と関連させた道徳科の授業」



【ボッチャを紹介した学習の導入の例】

第6回は、合理的配慮を軸とした、インクルーシブ教育と関連させた道徳科の授業について学習しました。教材の観点、話合いの手立ての観点、体験的活動の観点と、それぞれの先生によって違った角度からインクルーシブ教育を捉えた実践が、紹介されました。日常のあらゆる場面に、合理的配慮のきっかけがあふれていることに気付かせることで、子どもたちの考え方が広がることを学習しました。

☆ 第7回以降の学習会 ☆

- 第7回・第8回 12月 1日(水) 「いじめ防止教育と関連させた道徳科の授業」
「情報モラル教育と関連させた道徳科の授業」
第9回 1月11日(水) 「家庭や地域と連携した道徳科の授業」
第10回 2月21日(月) 「SDGsと関連させた道徳科の授業」

本年度のあゆみ

月	日	小学校低学年・中学年研究部会	小学校高学年・中学校研究部会	合同学習会
5	10	研究部員総会（紙面開催）		
5	14	中止		他者と協働する 道徳科の授業 （紙面開催）
6	16	道徳科における個別最適な学びと協働的な学びとは （オンライン開催）		国際理解と関連させた 道徳科の授業 （紙面開催）
7	7	小学校高学年・中学校研究部会の模擬授業から学ぼう （現地開催及びオンライン中継）		他教科や行事と関連させた 道徳科の授業 （紙面開催）
9	3	道徳科における個別最適な学びと協働的な学びの工夫① （オンライン開催）		人物教材を用いた 道徳科の授業 （紙面開催）
9	21	道徳科における個別最適な学びと協働的な学びの工夫② （オンライン開催）		キャリア教育と関連させた 道徳科の授業 （紙面開催）
10	13	部員の実践から学ぼう 会報作成について		インクルーシブ教育と 関連させた道徳科の授業
10	28	公開授業の事前検討会（授業者による模擬授業）		
11	9	小学校高学年・中学校研究部会 授業研究（公開授業）		
12	1	公開授業の事後検討会 （オンライン開催）		いじめ防止教育と 関連させた道徳科の授業
				情報モラル教育と 関連させた道徳科の授業
1	11	研究発表会の準備		家庭や地域と連携した 道徳科の授業
1	20	研究発表会リハーサル		
2	2	研究発表会		
2	21	来年度に向けて		SDGsと関連させた 道徳科の授業

※ 1月以降については、予定が掲載されています。

あ と が き

本年度も、名古屋市道徳研究会の会報を発行することができました。まずもって、ご協力いただいた皆様方にお礼申し上げます。

本年度は、「夢に向かって生きる子どもたち」を全体テーマとし、「小学校低学年・中学年研究部会」「小学校高学年・中学校研究部会」の両部会ともに、「道徳科における個別最適な学びと協働的な学び」について実践研究に取り組んで参りました。今年度は、昨年度以上に、新型コロナウイルス感染症がまん延し、各部会をオンラインで開催するという新しい方法で研究を進めることとなりました。「このような状況下だからこそできることをやっという合言葉に、部員一人一人が「自分事」として研究に取り組むことができたと思っています。そして、多くの実践例の中で、児童生徒に一人一台配布されたタブレット端末も活用しています。これまでの道徳科の授業づくりで培ってきたことを土台とし、新しいことに積極的に挑戦し、名古屋市の道徳指導の更なる向上に役立つようにと、部員一同、精一杯取り組んでまいりました。本誌に掲載された実践の記録を読んでもらうだけでも、どの学年の道徳科の授業にでも生かすことができるアイデアや工夫が、ぎっしりと詰まっていることが伝わったと思います。

私たちは、「道徳科の授業にしっかり取り組むと学級経営力があがる」と諸先輩方から教わってきました。それはきっと、道徳科の授業が、児童生徒の一人一人の心の成長につながる時間だからだと思います。そして、ICTの活用が日常のものとなっていく、人間関係の希薄化が心配されるこれからの時代だからこそ、児童生徒の心を育て、教師も共に学ぶことのできる道徳科の授業が大切になってくると思います。ぜひ、本誌を校内で紹介していただき、多くの先生方に道徳の授業で活用していただけることを切に願っております。

最後になりましたが、本研究会に対しまして、格別のご指導、ご支援を賜りました先生方、並びに各関係機関の皆様、心より感謝申し上げます。また、本会報を発刊するにあたり、実践並びに執筆にご尽力いただいた先生方に敬意を表するとともに、厚く御礼申し上げます。

名古屋市道徳研究会委員長

西山小学校 竹川加奈子

会報作成協力者

【小学校低学年・中学年研究部会】

部長 岡田 陽介（宝 小）
副部長 土屋 俊貴（当知小）
部 員 石原 聖也（新栄小）
大島 佑太（緑小）
駒田 麻子（志段味東小）
畠山 靖弘（平田小）
松下 恭平（二城小）
三澤 裕紀（御器所小）
宮原 宝（苗代小）
森本 和良（なごや小）
吉川 慶（中川小）

【小学校高学年・中学校研究部会】

部長 井町 知美（中川小）
副部長 根本 貢太（庄内小）
部 員 杉浦 弘祥（岩塚小）
下平 剛大（守山小）
石坂 直也（神の倉小）
岡田 夏実（豊治小）
倉屋 玲樹（旗屋小）
野町 若菜（大手小）
坪井 奏磨（宮前小）
真田 幹弘（高木小）
豊田 昇平（春岡小）
近藤 さき（大高中）
伊橋 諒（守山西中）